

2021年3月17日

## 第13回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」を表彰 受賞者決定のお知らせ

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、2020年度「第13回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」(後援:公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会)の受賞者を決定しました。

本賞はスポーツ振興に多大な実績を残すとともに、社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するもので、「縁の下の力持ち」にスポットライトを当てているのが特徴です。

受賞者の詳細は、以下のとおりです。

### 第13回受賞者のご紹介(敬称略)



[奨励賞] 越智 貴雄 (おち たかお)

写真を通し  
パラアスリートのアスリートとしての  
活躍・魅力を伝播

フォトグラファー

スポーツチャレンジ賞については  
<https://www.ymfs.jp/project/culture/prize/>



※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:大庭)

## 写真を通しパラアスリートのアスリートとしての活躍・魅力を伝播

おち たかお  
**越智 貴雄** (1979 年・大阪府出身) フォトグラファー

2000 年から障害者スポーツの取材に携わり、アスリートとしての生き様にフォーカスする視点で撮影・執筆。2004 年、障害者スポーツの情報サイト「カンパプレス」を立ち上げる。2014 年に障害者アスリートを含む義足の女性たちの美しく力強い姿を収めた写真集『切断ヴィーナス』を出版。翌 2015 年にはリアルに見て欲しいと、義肢装具士の臼井二美男氏とともに義足の女性たちによるファッションショーを開催。写真がさまざまなメディアで使用されるほか、書籍・写真集の出版、写真展の開催、テレビ・ラジオへの出演、連載コラムの執筆など多方面で精力的に活躍中。

| チャレンジの足跡 | 「東京パラリンピックまであと 465 日」本来であればちょうど開催 100 日前。日課のジョギングで東京駅近くを通過した際、目に飛び込んできたオリンピック・パラリンピックのカウントダウンボードに「気づいたら号泣していました」と話すのは、国内外で障害者スポーツを撮影し続けているフォトグラファー・越智 貴雄さんだ。2020 年 3 月 25 日、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの大会延期のニュースが流れた。そのときは「スポーツは安心・安全が担保されてこそ行われるものと落胆はなかった」と振り返る。越智さんの妹さんは医療従事者で、過酷な状況にあった。その姿を見知っていたからこそ、「仕方がない。耐えるしかない」と無意識のうちに思考を停止していたのだろう。しかし本当は「パラリンピックの延期に対して我慢していたことに（カウントダウンボードに）気づかされた」のだった。

そもそも越智さんが障害者スポーツを撮影するようになったのは、2000 年のシドニーパラリンピックからだ。大学を休学してオリンピックの取材をしていた越智さんに「このままパラリンピックも撮影しないか？」と声がかかった。「障害を持つ人にカメラを向けていいのか」という不安もあったが、大会が始まるや否やそんな先入観

は吹き飛んでしまったようだ。「パラアスリートが僕に見せたもの、人間ってこんな能力を持っているんだ。すごい！の一言でした」。このすごさを少しでも多くの人に伝えたいと、帰国後、写真展を開催。ところが来場者の反応は「障害者にこんなことさせていいの？」「かわいそう」。競技場で目の当たりにしたパラアスリートのすごさが少しも伝わってなかった。障害者スポーツに対する社会的理解度が今よりも低かったにせよ、「いい写真が撮れた！」という手応えがあっただけに、自分が見た・感じたすごさを自分の写真で伝えられない悔しさと、撮影させてもらった選手への申し訳なさが交錯した。以来、障害者スポーツの大会だけでなく、練習、合宿と機会があれば出向き、躍動する選手の姿をカメラに収めてきた。「たゆまぬ努力を積み重ねる



彼らのありのままの姿を、アスリートとしてのすごさを、知らないでいるなんてもったいない」との想いからだ。

緊急事態宣言が解除されて最初の撮影は、パラリンピック競泳の成田真由美選手だった。越智さんの目に成田選手は、これまでと何も変わっていないように映った。すでに気持ちを切り替え、新しい目標に向かって今、何をすべきか、やるべきことをただひたすらやり続けていた。その姿に「アスリートってやっぱりすごい！」と改めて教えられたと越智さん。そして「今、自分ができることは何か」と自問自答し、「これまで続けてきた活動をやり続けて未来につなげるしかない」と、東京パラリンピックの開会式にあたる 8 月 25 日に

パラアスリートら義足の女性によるファッションショー「切断ヴィーナスショー」の開催と、義足の女性をモデルにした「切断ヴィーナスチャリティーカレンダー 2021」の出版を決意した。

障害者スポーツの魅力を伝える活動に加えて、義足の女性アスリートらをモデルに撮影する「切断ヴィーナス」プロジェクトは、競技用義足を作る臼井二美男さんとの出会いがきっかけだった。「臼井さんの義足はまさに芸術品。でも義足は隠すべきものと考えている人が多いことに驚き、

それなら義足のかっこよさが伝わるような、隠さなくてもいいと思えることをしたい」とスタートした。2014 年には写真集を出版し、その後、ファッションショーを企画・開催。写真やショーを見た義足のアスリートや女性から「次は自分も！」という声が寄せられ、「義足は隠すものという社会の思い込みが少しずつ変わってきている手応えを感じている」と言う。パラリンピックの延期を逆に開催した「切断ヴィーナスショー」は、オンラインで配信されたこともあって、国内にとどまらず全世界から大きな反響を呼んだ。

たくさん見聞させてもらうことで既成概念に気づき、それが徐々に解消されていく。障害者アスリートのありのままの姿を、義足の人たちの素顔を、写真を通じて広める越智さんは、彼らと社会を繋げる架け橋である。

## ■ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 概要

本賞は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰し、受賞者のたゆまぬ努力と成果に敬意を表するものです。競技、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどさまざまな分野において功績を挙げた「縁の下の力持ち」にスポットライトを当てるとともに、受賞者の実像を通してチャレンジすることの尊さや、「努力は報われる」という信念を社会に広げることをめざした表彰制度です。

|     | 対象   | 選考のポイント   | 賞典  |
|-----|--|---|---|
| 功労賞 | 長年にわたるスポーツ振興への貢献や、先駆者として実績を挙げた人・団体         | 長年もしくは過去に行われ、年数を経てから高い成果と認められた尊敬に値する礎的、先駆的な取り組みであること(指導者、研究者、審判、ジャーナリストなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献した活動など)。         | 賞金 100 万円<br>(団体は 200 万円)<br><br>賞状・メダル<br>副賞 |
| 奨励賞 | 今後のスポーツ振興に大きな影響力が期待される、その年、極めて高い成果を挙げた人・団体 | 短期的、もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を受けた賞賛に値する取り組みであること。たとえば世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たした指導者、研究者、サポートメンバー、審判、ジャーナリストによる活動など。 |   |

※2020 年度は奨励賞のみ

## ■選考委員会 (敬称略/五十音順/2021 年 1 月 1 日現在)

|            |                                 |                            |
|------------|---------------------------------|----------------------------|
| 選考委員長      | 伊坂 忠夫                           | 学校法人立命館 副総長、立命館大学 副学長      |
| 選考委員       | 衛藤 隆                            | 東京大学 名誉教授、大阪教育大学 客員教授      |
|            | 遠藤 保子                           | 立命館大学 産業社会学部 特任教授 名誉教授     |
|            | 景山 一郎                           | 日本大学 生産工学部 教授              |
|            | 川上 泰雄                           | 早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授         |
|            | 北川 薫                            | 梅村学園 学事顧問、中京大学 名誉教授        |
|            | 草加 浩平                           | 東京大学 大学院工学系研究科機械工学専攻 ディレクタ |
|            | 小島 智子                           | 追手門学院大学 客員教授               |
|            | 定本 朋子                           | 日本女子体育大学 名誉教授 特任教授         |
|            | 篠原 菊紀                           | 公立諏訪東京理科大学 共通教育センター 教授     |
|            | 杉本 龍勇                           | 法政大学 経済学部 教授               |
|            | 高橋 義雄                           | 筑波大学 体育系 准教授               |
|            | 野口 智博                           | 日本大学 文理学部 教授               |
|            | 福永 哲夫                           | 東京大学 名誉教授、早稲田大学 名誉教授       |
|            | 増田 和実                           | 金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授       |
|            | 丸山 弘道                           | 株式会社オフィス丸山弘道 代表取締役         |
|            | 村田 亙                            | 専修大学 ラグビー部監督               |
| ヨコ ゼッターランド | 日本女子体育大学准教授、公益財団法人日本スポーツ協会 常務理事 |                            |

※競技団体、大学、報道機関、ジャーナリストなどから候補者の推薦を募り、2回の選考委員会を経て決定

■歴代受賞者（敬称略）

|                |     |  |
|----------------|-----|--|
| 第1回<br>2008年度  | 功労賞 | 中野 政美（柔道指導者）<br>女子柔道の世界レベル選手の育成と女子柔道の発展  |
|                | 奨励賞 | 丸山 弘道（車いすテニス指導者）<br>北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ   |
| 第2回<br>2009年度  | 功労賞 | 塚越 克己（スポーツ医・科学研究者）<br>日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「縁の下の力持ち」   |
|                | 奨励賞 | 増田 雄一（アスレティックトレーナー）<br>トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み  |
| 第3回<br>2010年度  | 功労賞 | 高田 静夫（サッカー審判員）<br>日本人審判員の育成をめざした各種制度の確立と運用   |
|                | 奨励賞 | 中村 宏之（陸上指導者）<br>雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践<br>中北 浩仁（アイススレッジホッケー指導者）<br>強化システムの大改革で日本初のメダル獲得にチャレンジ  |
| 第4回<br>2011年度  | 功労賞 | 岸本 健（スポーツ写真家）<br>スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献   |
|                | 奨励賞 | 水谷 章人（スポーツ写真家）<br>独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力  |
| 第5回<br>2012年度  | 功労賞 | 樋口 豊（フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者）<br>国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献   |
|                | 奨励賞 | 江黒 直樹（ゴールボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ）<br>「楽しいリハビリスポーツ」の普及をめざした 日本女子ゴールボールチーム 金メダルへの挑戦  |
| 第6回<br>2013年度  | 功労賞 | 臼井 二美男（技師研究員、義肢装具士）<br>スポーツ用義足の第一人者として「走る喜び」を提供する挑戦  |
|                | 奨励賞 | 東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部<br>戦略広報という立場から東京 2020 招致を支えたプロフェッショナル  |
| 第7回<br>2014年度  | 奨励賞 | 妻木 充法（医学療法士、鍼灸あん摩マッサージ指圧師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーマスター）<br>公正なジャッジを支える「鍼治療」の技術<br>門田 正久（理学療法士、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、日本障がい者スポーツ協会公認スポーツトレーナー、<br>介護予防主任運動指導員）<br>障害者アスリートのメディカルサポート環境を拡充する取り組み |
|                | 功労賞 | 藤原 進一郎（日本障がい者体育・スポーツ研究会 元・理事長、日本障がい者スポーツ協会 元・理事、技術委員会 元・委員長、<br>日本パラリンピック委員会 元・運営委員、極東・南太平洋身体障害者スポーツ連盟 スポーツ委員会 元・委員長）<br>「すべての障がい者の生活者にスポーツを——」その信念を貫いた 40 年                             |
| 第8回<br>2015年度  | 奨励賞 | 中島 正太（15人制男子ラグビー日本代表チーム/7人制男子ラグビー日本代表チーム アナリスト）<br>先端技術を駆使したデータ分析で、ラグビー日本代表の躍進に貢献  |
|                | 功労賞 | 今村 大成（株式会社タマス 取締役/Tamasu Butterfly Europa GmbH 社長）<br>日本若手卓球選手の武者修行を支え続ける「デュッセルドルフの父」  |
| 第9回<br>2016年度  | 奨励賞 | 野口 智博（日本大学文理学部 教授/木村敬一選手パーソナルコーチ）<br>障害者スポーツ全体の課題に先鞭をつけた挑戦〜トップ選手の指導からパラアスリート強化の現場へ〜  |
|                | 功労賞 | 狩野 美雪（デフバレーボール日本代表女子チーム監督）<br>トップ選手の経験を活かした指導でデフバレーボール日本女子代表を金メダルに導く   |
| 第10回<br>2017年度 | 功労賞 | 荒井 秀樹（日本パラリンピックノルディックスキーチーム監督）<br>パラノルディックスキー、ゼロからの挑戦  |
|                | 奨励賞 | 日本スケート連盟 スピードスケート科学サポートチーム<br>平昌オリンピックのスピードスケートマスタートおよび<br>チームバシユート競技へ向けたレース分析サポート   |
| 第11回<br>2018年度 | 奨励賞 | Scrum Unison（スクラムユニゾン）<br>ラグビーワールドカップ日本大会にて世界から集まる選手やファンを<br>「国歌やラグビーアンセム」を歌って“おもてなし”  |
| 第12回<br>2019年度 | 奨励賞 |  |